

(平成 28 年 1 月 6 日受付)

市の津波対策について

■内容

文里湾岸の製材所付近の堤防は、いつも通るたび、昔、私たち子供の時分よりもずっと古くて、もろく弱く、堤防が低くて本当に怖いです。逃げるにしても裏山が今はなくなっています。道路の整備も必要大事ですが、海の危険な場所、特に民家の多い場所は水門の整備、堤防をもっと高く整備をしっかりとすることで、少しでも人の命の被害が少なくて済むと思います。

市としては、水門の老朽化、堤防の補強について、昔の災害の大きかった地区の教訓を踏まえて、今後どのように対策を考えているのでしょうか？

■回答

市の津波対策としましては、まず、津波から逃げ切ることを第一義として取り組み、市民の皆様へ啓発しているところであります。他の災害と異なり津波からの避難は緊急性を要することから、これまでも各地域の特性に応じた避難路の整備や避難誘導灯、海拔表示板等の整備のほか、文里津波避難タワーや所有者のご協力を得まして津波避難ビルの指定などに取り組んでまいりました。

ご指摘いただいております、新庄町橋谷付近におきましては、橋谷避難広場の整備やそれに直結する避難路の整備、また、J R と協議を重ね、津波発生時には線路をまたいでバイパス方面の高台へ避難できるよう開閉式フェンスの設置、J R 紀伊新庄駅の跨線橋の駅裏への延長などの基盤整備を実施しております。

なお、海岸の堤防や水門などの構築物については、和歌山県が事業を実施しており、現在の文里湾岸の堤防は高潮対策のものですが、東日本大震災を受けて、県では今後 10 年間での津波防潮堤などの海岸構築物の強化に向けた事業実施を表明しており、市内では、田辺漁港や文里港が事業の対象地区に選定されています。しかしながら、これにより全ての津波の浸入を防ぎきることができる訳ではありませんので、今後とも決して防潮堤を過信せず、強くて長い揺れを感じたときはすぐに高台へ避難するということを啓発してまいりたいと考えております。

【防災まちづくり課 地域防災係】